

舞踊作品における人間の身体とその動き (movement) による表現の可能性とは  
—ニジンスカの *Les noces* を題材として

柿沼 美穂 (東京工芸大学)

文献に基づく作品研究は、特に舞踊をはじめとする、言語を主たる表現手段としない芸術ジャンルの作品の理解において有用かつ参照すべきものの一つである。ニジンスカ (Bronisława Niżyńska, 1891-1972) の *Les noces* (1923) についても、この作品が結婚の儀式を通じて男性優位の社会構造を浮き彫りにしたものであるとする、示唆に富む研究が、最近日本で発表された (近藤 つぐみ 2023)。しかし、作品そのものにも、そうした作品理解の契機は多数見出される。作者たちは言語以外の方法で、作品に自らの思いを鑑賞者へのメッセージとしてこめるからである。

鑑賞者である私たちは、そうしたメッセージを、何らかの形で受け止めている。たとえば「感動した」「ショックを受けた」といった感想は、作者からのメッセージを何らかの形で受け止めてこそ出てくるものであろう。ただし、作者はしばしば、作品のディテールにメッセージを埋め込んでいくため、作者の意図をより具体的かつ明確に把握するには、複数の観点および方法論による、詳細な作品分析が必要となる。

今回の発表では、先行研究 (Preston-Dunlop, Valerie 1981) を踏まえ、ニジンスカの *Les noces* に関して、必要と思われる観点からの分析および考察を行い、作者のメッセージを明らかにすることを旨とする。具体的には次のような観点から分析・考察を行うこととする。

#### (1) movement (動き) における特徴

##### a. 「動きの質」 (movement quality)

*Les noces* は非常に特徴的な movement によって構成されているが、その最大の特徴は「動きの質」 (movement quality) を思い切り偏らせて作品が作られているということである。一般に舞踊作品ではさまざまな movement quality が用いられるが、これは movement が単調にならないようにという配慮による。

ニジンスカはこの「定石」を破り、作品の大部分で同じような movement quality を使用した。これはあたかも通奏低音のような効果を鑑賞者に与え、作品全体の強烈なイメージを残す効果をもつ。

##### b. 音楽と movement の関係

舞踊における movement と音楽は、非常に密接な関係にある。多くの場合、音楽は、舞踊をより大きく見せる、つまり、まるで重力から解放

されたかのような効果を上げるように使用される。この点でもニジンスカは定石に従わず、あえて逆の効果を狙っている。

また、ニジンスカの振付は、ある部分ではストラヴィンスキー独特の強烈なリズムの変化に同期させているが、あえて同期させずにイレギュラーな movement としている箇所も見受けられる。こうした扱いにも意味がある。

##### c. ダンサーの表情 (表現力)

一般に舞踊作品において、ダンサーは表情、すなわち、身体における表現力を最大限生かすことを求められる。ところが、*Les noces* ではこのような表現力が、ごく一部を除いてあえて封じられている。

#### (2) 美術

##### a. 衣装

*Les noces* の美術は簡素である。多くの場合、結婚式は華やかなものだが、ここで用いられている衣装はシンプルそのものである。男性、女性とも、ロシア風の民族衣装をこれ以上簡素化できないところまで装飾をそぎ落としたものを着ている。色彩もモノトーン調で、花嫁は白いスカーフ、他の女性たちはえび茶のスカーフを頭に巻いているが、それ以外はすべて同じもの、男性は花婿も含めて全員が同じものを着ている。

特に、女性の衣装は、スカートがタイトな形になっており、回転によるスカートの拡がりなどの効果も見られない。

##### b. 舞台装置など

舞台装置は、第4部の祝宴の場を除き、背景幕以外ほとんど使われない。また、多くの場合、その場面の情景は、舞台上のダンサーたちの組み合わせによって示唆される。

※今回の発表において、分析の対象としたのは、2001年に録画された Royal Ballet の公演である。

ニジンスカは、*Les noces* について、当初から明確なイメージを抱いていたと思われる。というのは、その制作過程で、自らのコンセプトにそぐわないものは、一切認めなかったからである。

たとえば、舞台美術を担当したゴンチャロヴァ (Natalia Goncharova, 1881-1962) は、伝統的なロシアの結婚式に基づいたスケッチをすべて描きなおさなければならなかったし、リハーサル時にニジンスカの振付を見たストラヴィンスキー (Igor Stravinsky, 1882-1971) がディアギレフ (Sergei Diaghilev, 1872-1929) に不満を訴えたという記録が残っている。

今回の発表では、ニジンスカがそのメッセージをどのように具現化したかということについて、作品分析から可能な限り迫ることを試みる。